令和元年度　　家庭、技術・家庭科　研究のまとめ

下伊那教育会　家庭、技術・家庭科委員会

Ⅰ　研究テーマ

「主体的に協働して課題を解決し、生活での実践につなげられる子どもの育成」

Ⅱ　研究テーマの視点

本委員会では、家庭科、技術・家庭科の学習を、主体的に協働して課題の解決に向かう活動を通して、生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる教科であるととらえている。これまでの研究から次のような成果と課題を得た。

【成果】

・題材の始めに生活の見つめ直しから明らかになった子どもの問いや課題から題材デザインを構想することで、意欲的な追究の姿が見られた。
・子どもにとって「身近なものや身近な場面」を設定し、比較する・試すなどの学習活動によって、主体的な追究につながりやすいことがわかった。
・考えを学習カードや付箋などに可視化することで、じっくりと課題解決に向かう姿が見られた。また、新たな視点や課題に気付く姿が見られた。

【課題】

・生活や社会とつながり子どもの問いが連続する学びになるような題材デザインや題材の構想を深めていく。
・題材のまとまりを通し、一時間ごとの成長や友とのかかわりのよさを子ども自身が実感できるような手立てや評価のあり方を探っていく。
・学びの深まりにつながるような教師のかかわり（題材選定、発問、追究のよさの価値付けなど）を深めていく。

Ⅲ　研究の内容

１　学び続ける個の姿とは　～家庭、技術・家庭科における具体の姿～

・自分のねがいを大切にし、ねばり強く取り組むことができる児童・生徒
・自分なりに表現したり、工夫したりすることに楽しさを感じる児童・生徒
・学びや成長を実感し、新たな課題を見付け取り組む児童・生徒
・生活をよりよくしようと、実践的に取り組む児童・生徒
・自分のもっている力を場面に応じて活用していける児童・生徒

２　取り組んだ研究の視点

上記の成果と課題を踏まえ、本年度の研究は「必要感があり実生活や社会につながる授業」「子どもの問いが連続する授業」を大事に考えてきた。そして、他者を理解し共に学び合い、連続した学びにより学習の深まりを実感していく子どもの姿を思い描き、題材を通した授業に焦点をあて、研究を進めてきている。

【視点１】授業づくり

・生活や社会につながる題材の設定と子どもの問いが連続する題材デザインの構想

・驚きや興味・関心、発見など願いや課題につながる対象との出会わせ方

【視点２】自他との関係

・課題解決に向けて、「やってみたい」「友の考えを知りたい」など必要感のある体験的活動や協働して課題を解決する場の位置付け

・子どもの学びのよさや新たな課題を引き出しつなぐ教師のかかわり（教師の声がけ）

【視点３】評価

・題材を通した課題の設定と自己の学びの振り返り

・学びや成長を実感できる学習カード

・自己の学びや新たな課題に気付く振り返りの場の充実

Ⅳ　研究で明らかになったこと

１　指導の実際

（１）実証授業の概要１　題材名「夏をすずしくさわやかに」

◆授業学級　　竜丘小学校　６年１組（男子１２名　女子１２名　計　２４名）
◆授 業 者　　千野　加世子 教諭

①　題材デザインの構想

学習活動	指　導
１　夏の生活を見つめよう（１時間）	自分の生活を振り返り、夏の生活の工夫や課題点に気付かせる。
【題材を通した課題 】夏の生活を快適に過ごすためには、どんな工夫をすればよいだろう	
２　快適な住まい方を考えよう（２時間） （１）自然を生かした住まい方を考えよう （２）快適な住まい方の工夫をまとめよう ３　快適な着方を考えよう（２時間） （１）夏服の特徴を考えよう （２）快適な着方の工夫をまとめよう	（１）冷房以外の工夫があることに目を向けさせ、通風などの実験を通して自然を生かした住まい方のよさに気付けるようにする （２）実験や資料から考えた工夫についてまとめるよう促す （１）夏服を持ち寄り、どんな観点でその服を選んだのか考えさせ、衣服の働きや着方について理解できるようにする （２）夏に合わせた着方の工夫についてまとめる場を確保する
４　夏の生活を工夫しよう（１時間）【本時】	**今まで考えてきた工夫を組み合わせ、夏休みの生活を快適に過ごすための計画を見直せるようにする**
【家庭実践】夏休み中	※各家庭で実践する
５　実践発表会 まとめ（１時間）	（１）実践の様子を発表し、題材を通した振り返りの場を設ける。

１◆題材を通してつける力
　季節の変化に合わせた生活の大切さを理解し、快適な住まい方や着方を工夫できる力
２　自分の生活の課題に気づき、解決のための方法を収集・整理できる力

②【視点２】自他との関係

◇自分の願いを大切にしながら、友とのかかわりによって新たな技を取り入れ、より快適な過ごし方を工夫することができたＳ児

【Ｓ児の願い】自然をいかしながら、快適にすごそう！

・ペアのＲ児のプランの発表を聞く。
・Ｓ児のメモ　→エアコンの下にせん風機（首回り）で、すずしくなったらとめ窓を開ける。
・自分のプランをＲ児に発表する。

＜内容＞
・薄いカーテンを閉めたまま窓を開ける。
・日光が強いときは机を日陰に置く。
・エアコンはあまり使いたくない。
・タオルに保冷剤を入れて首に巻いたりする。

・Ｒ児のメモ　→机を日陰に置いて勉強、エアコンはあまり使わない。
・女子のところに行く。「エアコンの風が１カ所にかたまらないようにする。」
・Ｓ児「うちは上に向けてるよ。」
「うちねえ、保冷剤を用意してタオルに包んで首の後ろに巻く。首を冷やすと涼しくなるから。直接あてると低温やけどになるからタオルをあてる。」
・教師「Ｔさん、いいのあったよね。」
・Ｔ児のプランを聞く。
・Ｓ児のメモ　→風のくる方にせん風機をおいて風通しをよくする。みんなにあたるようにする。

・席に戻る。
＊赤で囲ったところ　（教師は児童にプランの見直した部分に赤丸をするよう促した）

・エアコンの下に、せん風機（首回り）ですずしくなったらとめる
・みんなにあたるようにする。　「ここがポイント！」と赤字で書く。

・振り返りカードを書く。

【Ｓ児の振り返り】キーワード　「風回り」
みんなに風があたるようにエアコンの下あたりにせん風機を置くことが大切。

【考察】

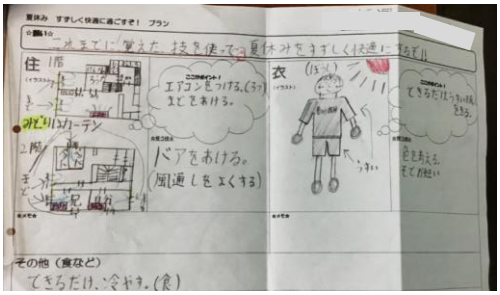
Ｓ児は学習問題が提示された後、教師から「どうやって見直していく？だれかに見てもらうのはどう？」と問いかけられたが首を横に振った。あまり友達には見てもらいたくない様子がうかがえた。

自然の力、すなわちエアコンに頼りすぎないで過ごしたいという願いをもっていたＳ児は、追究が始まると、保冷剤をタオルに包んで首に巻くと涼しく感じることを友達に勧めていた。授業前に書いていた技は「窓を開ける」「日光が強いときは机を日にあてないところに置く。日光が弱いときはそこに置く」という内容で、扇風機やエアコンのことは書かれていなかった。しかし、友達のプランを聞いていくうちに、エアコンの下に扇風機を置いて、みんなにあたるように首回り（首振り）にする技をつけたし、プランを見直すことができた。また、涼しくなったらエアコンや扇風機は止めて窓を開けるなど、なるべく冷房機器には頼りたくない思いも大切にしている様子であった。教師は指示していないが、自ら「ここがポイント！」と赤字で書き加える様子から、技を使うことでどのような効果があるのか理解することができたのではないか。また、友達

とアドバイスし合うことが、自分のプランを見直しよりよい住まい方を工夫するために有効だったと考える。最初は自信がなさそうな表情が見えたが、終末に教師が「昨日よりもよりできそうなプランになりましたか？」と問いかけた時、うなずく姿からよいプランを考えることできたという満足感が伺えた。

③【視点２】自他との関係

◇　友や教師とのかかわりによって新たな視点に気づいていったＦ児



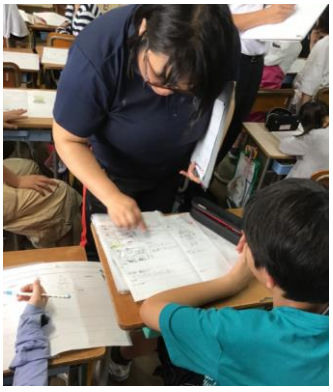
＜授業開始時のワークシート＞
○前時までに計画したワークシートには、「住」のところに力を入れ、エアコンの使い方や風の流し方について丁寧にまとめていたＦ児

10:03　ペアのＨ児との会話

＜Ｈ児→Ｆ児への言葉＞　「そでロやえり元、ゆったりしたものを着る」

＜Ｆ児メモ＞　「衣」の部分へ　→　「そでが短い服をきる」

＜Ｈ児メモ＞　「住」の部分へ　→　「エアコンをつける。窓を開ける。自分と考えは同じ」



10:07　先生来席

Ｔ：→Ｆ児

「クーラーをつけてるとき窓を開けたら、私の失敗と同じだよね」

Ｔ：→Ｈ児

「衣もいいけれど、住についても言ってあげて」

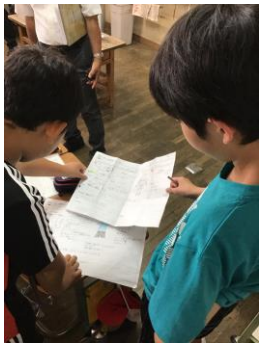
Ｋ児が来席。三人で会話する。

＜その後のＦ児メモ＞
「クーラーをつける時は窓を閉める。窓を開ける時はクーラーをとめる。夜は蒸し暑いからクーラーをつける」

【考察】Ｆ児は、「住」のところで「エアコンをつける」と「風通しを良くする」の二つに目をつけており、同時に行おうとしていたが、教師の助言とＨ児、Ｋ児との会話から、クーラー（エアコン）を使う時には窓を閉めること、逆に窓を開ける時にはクーラーを止めることに気づくことができた。また、夏の夜の状況を思い浮かべて、エアコンを使った方が快適に過ごせると考えた。実生活につながる着眼ができたと考えられる。

④【視点３】評価

◇友とのかかわりにより課題解決のよさを実感できた振り返り
～Ｆ児の姿より～



10:12　なかなか動き出せなかったＦ児だが、Ａ児が誘いに来てくれ、Ｈ児のところへ移動。

＜Ｈ児のワークシートを覗き込むＦ児＞

Ｈ児：「色を変える。青とか、こういう（Ｆ児のシャツを指し）色の方がいい」

10:19　席に戻る

Ｆ児： 赤鉛筆でラインと囲いを引く

＊赤で囲ったところ（教師は児童にプランの見直した部分に赤丸をするよう促した）

○衣：「色は黒ではなく明るい色」
○住：「クーラーをつける時は窓をしめる。窓をあける時はクーラーを止める。
　　夜はむし暑いからクーラーをつける」
○その他：「こわい話をする」

10:25　教師：「前より、家でできそうなプランになりましたか。友だちに教えてもらい、どうだったか書こう。」

10:26　Ｆ児：「いろんな意見で夏をすずしく快適に過ごすぞプランが見直せた」と、振り返りカードに書く。

【考察】

Ｆ児は、あまり会話を交わしたわけではないが、「いろんな意見で」と書いてある通り、友との会話やワークシートを見合い、友から得た情報をプランに書き込み赤線や丸印をつけたことにより、自分の考え方を見直したり、新たな考えに気づいたりすることができたという実感を持てたようだ。

ワークシートに書かれた部屋の図や、下伊那の夏の夜の蒸し暑さを連想して考えた「夜は蒸し暑いからクーラーを使う」という記述から、このプランを実行して夏を快適に過ごそうという意欲が感じられ、本題材の設定および展開、子ども同士で関わる学習が功を奏したと言える。

（２）実証授業の概要２　題材名「エネルギー変換に関する技術～ﾃｰﾌﾞﾙﾀｯﾌﾟの製作～」

◆授業学級　　高森中学校　３年２組（男子１３名　女子１７名　計　３０名）
◆授 業 者　　笠原　稔一　教諭

①　題材デザインの構想

学習活動（時数）	内　　容	評価の観点			
		関心	工夫	技能	知識
エネルギー変換とその利用（５）	エネルギー変換とは	○			○
	【題材を通した課題 】 電気を安全に快適に使うための技術を身につけよう				
	電気を作り、供給するしくみ	○			○
	電気回路の構成、しくみ				○
	電気機器の安全な利用（本時）				○
テーブルタップの製作（５）	導線のむき出し、圧着端子の接合			○	
	プラグ部の組み立て、オプション部品の組み立て			○	
	LED、抵抗器、整流ダイオードのはんだ付け		○	○	
	コンセント部の組み立て			○	
	テーブルタップの保守点検、回路計の使い方			○	○

②【視点①】　授業づくり（導入場面での題材との出会い）

◆生活場面や生活行為とつなげながら、より快適で安全な使い方に考えを深めていったM生

【１０:４５　教師の示範実験～テーブルタップの観察をする場面】
教師：家庭用電源とアルミはくでショートさせ火花実験を見せる。
M生：じっと教師の手元を見つめる。（火花が散った瞬間）「おー、怖い」と驚きの表情を見せる。
（学習問題設定後）
教師：「机上にあるテーブルタップを観察しよう」
M生：テーブルタップを握り、記載事項を観察する。「１５A，１２５Vか」　次につり下げタップを観察する。「どっちにもいっしょのことが書いてある」２つを見比べながらと、「同じ数字が書いてあるよ」と、班員へつぶやく。
班員：コンセントやテーブルタップの数値をそれぞれ確認し比較し合う。

【１０：５８（学習課題が設定され、グループで朝の使い方を考える場面）】
生徒：家電カード、間取り図など取りに行く。
教師：「各班ごと、自分の部屋で使う家電製品を考えよう」
M生：「早く一人暮らししたい。この部屋、パソコンがない。パソコンがほしい」家電カードを分類し、必要なものを選ぶ。（トースター、炊飯器、ケトル、ヘアアイロン）
M生:「朝何食べる？ご飯派？パン派？女子はヘアアイロン使う」
Ｙ生：「朝なのか、こたつ使う？でもダメか。１５Ａまでしか使えないよ。ケトルは１１Ａ，トースターは１０Ａか･･･」
M生：「こたつやめて、厚着すれば。ハロゲンを使えば？ハロゲンは１０Ａか・・・」
M生：「今、炊飯器が７Ａ，テレビが１．５Ａか」
Ｙ生：「ハロゲンを“低”で使えばいけそう」
M生：「そうだね」（大きくうなずく）
Ｙ生：ホワイトボードに数値を書き出す。「炊飯器７Ａ，テレビ１．５Ａ、ハロゲン（低）５Ａで、合計１３．５だ。あと、０．５Ａしか残ってないよ」
M生：「朝は、ヘアアイロン使うよ。２Ａか。お出かけ寸前に使う。朝にもいろんな使い方があるし・・・」

【M生の振り返り】今までコンセントのことは全て親がやってくれていて、本当に何も知らないなと思った。一人暮らしの時になったら、絶対に必要になるから覚えておいて、安全に使えるようにしたい。

【考察】
タップの観察場面では、M生はテーブルタップやつり下げタップのそれぞれの数値を全て調べ、定格値の存在を確認できた。また、配られたテーブルタップと普段の授業で使っているつり下げタップと比較する中で、同じ数字が記載されていることに気付き、班員もそれぞれのタップを自ら確認する姿につながった。

定格値と快適さ・安全さに注目し自分の部屋で使う電気機器を考える場面では、班で話し合いながら定格値の１５Ａをこえないように家電を組み合わせ考えていく姿が見られた。朝の場面でM生は、こたつは数値が大きくなるので使わず冬の寒さをしのぐために厚着にすればいいと考えたが、ハロゲンヒーターを低で使用すれば１５Ａ以内で可能であり快適に過ごせるのではとの班員のつぶやきから家電の使用の仕方を工夫し決め出すことができた。１日を通じ、食事・部屋の暖かさ・照明・衛生など各場面の生活行為と定格値をつなげながら友と考えることを通して、消費電力や定格値に気をつけて使うことが安全に過ごすために大事である理解することができた。

導入場面の示範実験や定格値などを確認できる複数の実物、生徒へのアンケートをもとに作成した家電カードが自分たちの生活と結びつけ考える意欲的な学びや友と協働し課題を解決していくことに有効であったと思われる。

③【視点②】自他との関係（他者との対話）

◇友と関わることで、自分の考えを整理し、最適な組み合わせを見つけることができたＺ生

【１１：０５　朝の使い方を考える場面】

Ｚ生：「コタツは要る。絶対！コタツに入るのは幸せだから。」　（「コタツ 600W」と書く）

Ｏ生：「コタツならご飯にしよう」（「炊飯器 700W」と書く）

Ｚ生：「ヘアアイロン！私は使うもん。**しかも丁度ぴったり！（「ヘアアイロン 200W」）**（少し考え）

Ｏ生：「やっぱり休日の一日にしない？」

Ｚ生：「ヘアアイロンやめよ。ルンバに掃除させるか。」（ルンバ 35Wに変更する）

Ｚ生：「あ、ダメだ。超えるよ。」（ルンバの横に 3.5Ａと記入）

Ｏ生：「0.35Ａだから大丈夫」

Ｚ生：「休日だからトーストにしよう・・・あ、ダメだコタツ使えない！」（トースター1000Ｗを炊飯器 700Ｗと変えようとするがやめる）

Ｚ生：「トースター使いたかった。ご飯で我慢する。」

【考察】消費電力と定格値に着目しながら、自分の部屋に置きたい家電製品を友と会話をしながら考える場面では、Ｚ生はコタツを自分の中で最も重要な家電に設定し、定格値の 15Ａを超えないように、組み合わせる家電を変えながら考えることができた。ルンバを取り入れる場面では単純な計算ミスにＯ生はすぐに気付き、指摘していく。トースターの場面では、Ｚ生はトースターとコタツを組み合わせると 15Ａという枠を超えてしまうことにすぐに気付き、コタツは絶対に外せないからという理由でトースターをあきらめる。決められた枠の中でいかにして自分たちの生活を快適にできるのか、友との関わりの中でその最適解を導き出そうとしている姿が見られた。

④【視点②】自他との関係（他者との対話）

◇友との関わりを通し新たな視点に気付き，生活をよりよくしていこうとする考えをもったW生

【グループ活動の中で】
Ｗ生：（定格値を超えてしまうので）「電子レンジいらんね。全然足りない。」（朝）

K生：「電子レンジは使うときだけつなぐ。」
W生：「えっ，でもこれでも無理だよ。」（炊飯器，こたつ，テレビがタップに繋がっていて空きが無い）
K生：「炊飯器で。」（電子レンジはあきらめる）
W生：（ロボット掃除機を貼り，）「昼使うから，朝，充電するんだよ。」
K生：「コンセントが足りない。」
W生：「朝から，こたついる？」→こたつは朝から外す。（ロボット掃除機を採用する）

【W生の振り返り】
定格値があることがわかったから，これからは，つなぎたいものをつなぐのではなく，つなげるかどうかを考えてつなぎたい。テーブルタップには，１日中ずっとつながず，使い終わったら抜くことも大切だと思った。

【考察】カードに書かれた消費電力値を見ながら，班員と「定格値を超えている」「超えてない」と話し合う姿が見られた。また，テーブルタップのコンセント数に限りがある中で生活の状況を考え，使いたい家電製品を選ぶことができた。K生との関わり（下線部）から，常につないでいるのではなく，使い終わったら抜くという新たな視点をもつことができた。このことは振り返りにも反映されていたので，今回のグループ活動でW生にとっては新たな視点を得ることができた。

授業終末の全体発表の場面では，発表内容については他の班と差が見られ，全体として考えを共有するには至らなかった。発表するのであれば，発表項目などを定めておくべきだったと思われる。また，定めておくことで，グループ活動においても話し合いの視点になったかもしれない。

（３）題材を通しての子どもの変容

～竜丘小「夏をすずしくさわやかに」～

①家庭実践「夏休みをすずしく快適に過ごすぞプラン」後の気づきや新たな課題

・暑い日はクーラーを使い涼しくなるものを食べてすずしく過ごすことができた。お父さんが着なくなった風通しのよいＴシャツを着てみたら、ゆったりしていてすずしかった。
・服がすずしい服になった。家ではエアコンと扇風機を組み合わせてすずしく過ごせた。
・地球温暖化が進まずに過ごせたらいいと思う。
・すぐエアコンをつけないで、自然の力を使って工夫する。エアコンを使うときは設定を変えて暑すぎず、すずしすぎない温度にしたい。
・最初、すずしい＝快適と思っていたし、機械に頼ればいいと思っていたけど、今は体の中からすずしくでき、自分の力で過ごしやすくすることだと思う。
・自然の力だけじゃなくて機械を使ったりして工夫していきたい。自分の技を使ったり工夫したりしてすずしくするのが快適だと思う。

②まとめ

「最近、白や青色の服を着ている子どもが多いな。」と感じたのは、授業で「すずしく快適に過ごす着方」を学習した後だった。「夏をすずしく快適に過ごすにはどうすればよいだろう」と題材を通した課題をもった児童は、観察や実験などから考えた工夫を自分の生活に自然に取り入れていた。学んだことを自ら実践し確かなものにしている姿だったと思う。そして、「夏を快適に過ごすぞプラン」は、授業で積み重ねてきたもののまとめであったと感じた。それは１２月になり家庭科のファイルを整理していた時、「先生、今度は寒い冬を快適にする技、やるよね」と話す児童の姿があったからである。自分が身に着けた工夫を使って、夏休み快適に過ごせたという実感が、次の学びにつながる言葉になっているのではないか。これからも児童の学びが続いていくような題材を追求していきたい。

～高森中「ｴﾈﾙｷﾞｰ変換に関する技術」～

③製作したテーブルタップを家庭で活用後の生徒の様子

～電気の学習を通して、新たに知ったことや今後の生活につなげられそうなこと～

・これからは、必要な時にだけ家電製品をコンセントにつなげたい。消費電力を気にしながら、火事などが起こらないように気をつけたい。石油はあと５０年しかもたないことを知ったので、気にしながら節約を心がけていきたいと思う。

・今までは何気なく電気を使っていたが、それをつくりだすのはこんなにも大変なもので便利だからこそ、安全に正しく使っていきたい。

・電気はとても便利で必要なものだが、危険もある。そこに気をつけ使っていかねばならないと学んだ。使える電気量をしっかり知って自分の家でも活用していきたい。おばあちゃんの家や自分の家でも定格値を超えていないか気にして、コンセントの掃除をしたい。

④まとめ

生徒は普段当たり前のように利用している電気が、自分たちの生活を快適にする一方で、使い方を誤ると危険なものになることを実感し、電気の安全な利用に目を向けることができた。また定格値のきまりやブレーカーの働きなどの電気を安全に利用するための既存の技術を知り、安全に注意して電気を利用しなければならないことを学んだ。題材の学習終了後には、家庭で「定格値」や「消費電力」に着目して家電製品を利用したり、電源プラグの掃除を行ったりするなど、題材を通して学んだことを日常生活で実践する姿につながった。

（４）壬生先生のご指導より（竜丘小公開授業　６年　～夏を涼しくさわやかに～）

①導入について

・教師には教えたいことあるが、それが子どもの学びにつながっているか。「主体は子ども」ここが一番大切である。

・本時は、「主体は子ども」を大切にした素晴らしい授業だった。本当に使えるプランかどうか子どもに問い、提示した教師のプランと子ども自身のプランと重ねる中で改めて見直したいという必要感をもち課題解決に向かうためのいい導入だった。教師の問いかけに、子どもがすぐ直し始めた姿は評価すべき事である。

②観点２について（今まで考えてきた様々な技を使って、計画を考えたことは、夏を快適に過ごすための住まい方や着方を工夫することにつながったか）

・Ｂ児は「風通しも意識する」と考えをもっていたが、友とのかかわり合いの後、「服も風通しも意識する」と赤印をつけた。自分の技を確認して赤線を引く姿があった。「風通しを意識する」ことを意識し、ずっと追究を重ねていた。

・学んだことが生活に生きる。振り返り場面でのＣ児の発言「夏休みに、安心しできそう」は素晴らしい発言。使えるプランで、見通しがある。

③振り返りについて

・なぜ、プランを変えたのか振り返ってみる。友の考えで大事だったことがあり、ここに関わりの価値がある。

・Ｄ児は「部屋をしめきる、日の当たらない窓はカーテンを開けても良いと思った。」と記し、風通しが観点となっていた。直射日光を避けるという教材の価値にＤ児も気付いていた。

・教師の問いかけとして「自分自身の技がはっきりしましたか。」も考えられるか。友の関わりが影響したとすれば、友の関わりが根拠となる。また、生活経験から生まれたもの。家庭科で友とのかかわりも観点にすることは大事である。

２　視点にかかわって見えてきたこと

（１）竜丘小

【視点１】授業づくりについて

・意識し生活へつなげ、また見つけるサイクルの題材デザインが大事である。
・導入で教師のプランの提示により「本当に自分のプランはこのままでよいのか。見直した方がよさそうだ」という課題が生まれ、意欲的な追究につながった。必要感のもてる導入のあり方を大切にしていく。
・児童の「電気代がかかる」とういう気付きから、さらに一歩踏み込んで「省エネや健康」といった見方や考え方から学びを深めていけるよう、話し合いやかかわり合いの視点や教師の出をさらに研究をしていくことを大切にしたい。

【視点２】自他との関係

・子どもが授業や家庭実践を通し、考えたことや実際にやってみたことが意味や価値のあることだと実感できるような体験や協働して課題を解決できるような場を位置付けていく。

【視点３】評価

・題材を通して子どもの変容をどうみとるか、自他とのかかわりの中で子どもがどう成長したか、教師のみとりの力を高めていきたい。
・学び続ける個が、自他とのかかわりを通してどう変容していくかをほりおこしていく。

（２）高森中

【視点１】授業づくりについて

・「エネルギー変換に関する技術」では初めての提案であった。場面設定、教材研究、日頃の授業づくり、授業の楽しさをいかにつくっていくかが大事である。
・導入場面の火花実験は効果的であった。その後、定格値の理解や定格値を超えない使い方への考えにつながっていた。定格値の学びを生かした授業だった。
・定格値を意識して取り組んでいた。もっとやってみたいと思える授業。よい活動だった。
・４班は追究場面でもう少し時間があるとよかった。共通の場面や比べられる設定とし、教師が「どこを直せばさらによくなる？」などと問い返していく方法も考えられるか。
・全体の発表場面の目的や共有のあり方を明確にしたい。結果の発表ではなく、各班のやりとりを生かした内容や妥協したことをどう自分たちでまとめたか等見える活動にしたい。

【視点２】自他との関係

・６班は「あたたかさ」「環境」「食」の３つの視点をもとに、班員が共有し追究する中で、話し合いが広がった。「家族にも話したい」と、生活への広がりも見られた。
・発表を通して自分の気付かない視点に気付けていた。

Ⅴ　本年度の研究から次年度さらに研究すべき課題は何か

・「学び続ける個の育成」に向けて、生活や社会とつながり子どもの問いが連続する題材デザインのあり方や題材の選定をさらに研究していく。
・ねらいにせまり学びの深まりにつながっていくために、ペアやグループなど発表場面における目的や願いの共有の在り方、話し合いの視点、発表内容などを吟味していくこと。
・「学び続ける個の育成」につながっていくために、新たな課題がもてるような教師の言葉がけや問いかけはどうあったらよいか。
・技術や生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活に生きて働く力を育成するための評価はどうあったらよいか。